

## データ、セキュリティガイドラインに関する論点

---

越塚登  
東京大学

### 1. 全体

#### 1.1 スーパーシティのガイドラインに含まれる内容（目次）

- (1) 技術項目（データ、API?、セキュリティ、（認証、ID、）...）
- (2) 非技術項目（規制改革、市民同意、...）
- (3) これらとアーキテクチャとの関係

#### 1.2 タイムライン

いつまでに何を、どこまで決めるか

- (1) 2020 年度
- (2) 2021 年度以降

#### 1.3 インクリメンタル

今年度決められない部分を来年度以降反映できる仕組み

#### 【考慮点】

全体の作業量と労力の見合い、ベースレジストリ全体の動きとの連携

#### 1.4 規格・ガイドラインのオーソリティ

- ・スーパーシティのガイドラインのオーソリティー  
（誰が定義して、将来に渡って誰が管理してメンテナンスするのか？）
- ・現状、オーソリティーがばらばら、政府全体として統一するのかもしれないのか？

#### （例）

- ・ Smart City Architecture = SIP 2019 年度（ちゅうぶらり）
- ・ IMI = IPA ?
- ・ ベースレジストリ = デジタル庁？
- ・ スーパーシティのデータ、API = 内閣府地方創生？
- ・ セキュリティ = 総務省？
- ・ スーパーシティに対して誰が責任をもって、規格のメンテナンスをするのか？

## 2. データモデル

### 【全体】

- ・今回のように、未完成な段階でもドラフトが出てくるという進め方はとても良い。
- ・今すぐにスマートシティで扱う全データのデータモデルを作ることはいできない。
- ・実際は3～5年はかかる。その上で、どういう方針ですすめるか？

### 2.1 決め方

- (1) 参照モデル（参照のみ？＝哲学を示すだけ）
- (2) 標準規格・ガイドライン（Conformance を含め強制性が一定程度ある）

### 2.2 シンタックス

- (1) 標準化する（JSON、XML、...）
- (2) 一部標準化する（漢字セットなど、データ型は決める、...）
- (3) 自由

### 2.3 セマンティックス

- (1) 既存の意味定義を流用
  - (2) 新規に定義する
- ※ 他規格との整合性（→ 2.4）
  - ※ 語彙定義する、しない

### 2.4 既存のデータの規格との関係

- (1) オープンデータ推奨セット
  - (2) IMI
- ...
- (a) 取り入れるのか、取り入れないのか
  - (b) 定義方法の共通化？

### 2.5 データの領域

- (1) どこから定義するのか？
  - ・なぜ地理データから？
  - ・他はよいのか？暫定的に IMI やオープンデータ推奨セットを使うとか？
- (2) どこまで詳しく定義するのか？

以上